

不動産開発に目利き力と 他事業とのシナジーを生かす

日本新都市開発は不動産、建設、飲食の各事業を手掛けている。不動産事業では、全国の土地を買い取り、自社で造成・分譲し、個人やハウズビルダーなどに販売している。

最大の強みは、田鍾柱社長が長年の事業経験で培った目利き力だ。隠れた魅力を持つ地方物件を独自の視点で掘り起こしている。今年に入ってからのは、栃木県小山市にテナントビルを開設。改修中に飲食店2社の入居が決まり、現在は企業テナントを募集している。田社長は「小山市のオフィス人口は都心に比べて多く

はないですが、一定のニーズが見込まれると確信しています」と話す。開発に至った理由は、駅近で生活道路に面しているという利点にある。

「建物は老朽化が進んで幽霊ビルのようでしたが、立地をみて、磨けば光る」と確信しました」

同社では物件の奪い合いが加熱する都心を避け、北は北海道や宮城県、西は山口、広島、岡山の各県などの中国地方に注力。価格競争に参入せず、ブルーオーシャンの中で絶妙な物件をバリエーションアップしてきた。

もう1つの強みは、建設・飲食事業とのシナジー効果にある。取得した建物を自ら改修し、自社店舗をテナントとして入居させることで、土地の取得から、引き渡しまで機動力を持って対応できる。田社長は「今後もお客さまに喜ばれる物件を堅実に開発します。今後は千葉県房総半島や神奈川県全域で土地を仕入れる計画です」と意欲を見せる。



田鍾柱社長